

日英のスタジアムからくる印象の違いに関する研究 The Difference in Atmosphere Between Japanese Stadiums and English Stadiums

1K07B081-4

指導教員 主査 石井 昌幸 先生

小嶋 麻季

副査 寒川 恒夫 先生

【はじめに】

日本とイングランドには現在、プロのクラブチームが存在し、リーグ戦、カップ戦が毎週末行われている。筆者はこれまでスタジアム観戦するなかで、日本とイングランドのスタジアムには、なにか大きな違いがあるように感じてきた。

そこで本研究では、両国のスタジアムに着目し、それが具体的にどのように異なるのかを検討していく。すなわち、スタジアムの構造、成り立ちや所有者の違い、スタジアムそのものへの関心の有無や愛着などを検討することを通して、両国におけるスタジアムの存在、位置を比較してみたい。そうすることによって、筆者が両国のスタジアムから受けた印象が異なった要因が、より具体的に見えてくると思われる。日英のスタジアムから受ける印象の違いの原因について考えることは、なぜイングランドで、人々がスタジアムに足を運び続けるのか、あるいは日本で、今後いっそう人々がスタジアムを身近なものと感じるようにするにはなにが必要かについてのヒントを与えてくれるに違いない。

【第1章 建造物としてのスタジアム】

日英のスタジアムの違いを、1・ピッチと観客席の距離、2・傾斜、屋根、コンコースの構造的違い、3・街とスタジアムの融合の具合の3点から比較検討した。その結果、イングランドのスタジアムは日本のスタジアムに比べ、その建築自体が、サポーター同士の一体感を生みやすい構造になっていることが明らかになった。また、イングランドではスタジアムの立地条件が、街との融合度の高さによってサポーターの一体感に寄与していることがわかった。こうした一体感がホームスタジアムに溢れていることが、日本のクラブチームと比較して、イングランドのクラブチームは圧倒的にホーム勝率が高い一つの要因であると考えられる。

【第2章 スタジアムの建設の歴史的背景】

日英を代表するタイプの異なるスタジアムをそれぞれ3つ取り上げ、その成立の過程と、所有者の違いについて検討した。その結果、イングランドでは、クラブが創設され、自然とスタジアムが誕生し、リーグができたのに対して、日本ではプロ・リーグを作るために、企業クラブをプロ化し、リーグへの参入の条件としてスタジアム建設がされており、スタジアム建設の背景が全く異なることがわかった。また、1990年代のスタジアム改革がイングランドのスタジアムを大きく変えたことも明らかとなった。

【第3章 両リーグアンケートからみえるスタジアム関心度の違い】

イングランドのPremier LeagueとJリーグそれぞれが行ったアンケート調査をもとに、サポーターのスタジアムそのものに対する関心度の違いについて考察した。プレミア・リーグのスタジアムに足を運ぶ人々は、「親や友人の影響で、試合の日の雰囲気を楽しみながら、地元のクラブがいかにプレーするかを、良い設備のスタジアムで観る」ことを重視していることがわかった。イングランドでは、こうした「雰囲気楽しむ」場としてのスタジアムが、たんなる試合を観戦するための設備ではなく、場合によっては個々の試合そのもの以上に意味を持つものとして位置づいているのに対し、日本では、スタジアムにはそれほど意味が見いだされていないことが明らかとなった。

【第4章 アタッチメントの再生産】

第3章でみた「雰囲気」は、クラブへのアタッチメント(愛着)に大きく貢献していると思われるが、クラブ側はスタジアムを基点にこのアタッチメントが再生産されるよう努めている。本章では、ミュージアム設置やスタジアムツアー、HPにおけるクラブ史への言及などの施策が、アタッチメントの再生産に及ぼしている影響について考察した。ミュージアム設置やスタジアムツアーは、クラブによるスタジアム所有が前提となっていると思われるが、HPやマッチデイプログラムの発行などの改善は、それほど資金を必要としないのだから、そうしたところから早急に改善することで、サポーターのクラブやスタジアムに対するアタッチメントを高めるうえで有効なのではないかと思われた。

【結論】

日英のスタジアムの雰囲気の違いは、イングランドのスタジアムが、まさに「Home Ground=家」のような存在であるのに対し、日本のスタジアムはスポーツを単に行う場所で、あくまでも「公共施設」であるところからきていると思われる。しかし、日本のスタジアムは、不特定多数向きで汎用性が高いことで、新たにサポーターを開拓していく上ではメリットである。イングランドのような雰囲気を生み出すためには、スタジアムへのクラブ、サポーター双方のアタッチメントが必要不可欠であり、そのアタッチメントの生産にはミュージアム設置やスタジアムツアーが有効であろう。その資金を稼ぐためにも、このメリットは大いに役立つのではないだろうか。